

港湾振興便り



2023. 2

第189号

* : * :

目 次

* : * :

1 ポートエッセイ — 国際クルーズ船の寄港再開 —
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

●秋田港が「ポート・オブ・ザ・イヤー2022」を受賞しました！
(東北地方整備局 秋田港湾事務所 海洋利用調整室)

●東京湾再生の願いを込めて～アマモメツセンジャーが関東地方整備局を訪問～
(関東地方整備局 港湾空港部)

●横浜港本牧ふ頭に15,000TEU型の超大型コンテナ船が初入港しました！
(関東地方整備局 港湾空港部)

●名古屋港ガーデンふ頭2号岸壁に銀河丸が寄港しました！
(名古屋港管理組合 広報・にぎわい振興室)

●第3回名古屋港CNP形成協議会を開催しました！
(名古屋港管理組合 企画調整室 次世代エネルギー推進担当)

●姫路港の機能強化に向けて～神戸港湾事務所姫路港出張所 開所式 開催～
(近畿地方整備局 港湾空港部)

3 お知らせ

◇イベント名:金沢みなとのてらんかい

*:

1 ポートエッセイ — 国際クルーズ船の寄港再開 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

今年は、3年ぶりに行動制限のない新年を迎えることができ、年末・年始の里帰りや家族旅行を、久しぶりに行えたという方も多かったのではないだろうか。

また、自粛していた新年の行事やその他多くのイベントについても、各地で再開されている様子が報道され、多くの笑顔を拝見することができた。

また、訪日外国人についても、昨年秋には入国制限の緩和をした影響もあり、訪日外国人の数は制限緩和とともに急激に増加した。

これにより、観光地などを中心に賑わいを見せており、対応する人手が不足しているといった事態が生じている。

このようななか、2020年3月以降寄港を停止していた国際クルーズ船の受け入れについても昨年11月から再開した。

「日本国際クルーズ協議会」や「日本外航客船協会」、「(公社)日本港湾協会」などの関係業界団体により感染症対策に関するガイドラインが策定・公表され、再開に向けた準備が整ったためである。

2019年のクルーズ船による外国人入国者数は約215万人と全体の入国者数に占める割合は6.7%とそれほど多くはないが、これが約3年間全減となっていたことは関係者にとって大きな痛手であった。

当時の経済効果は旅行消費額全体で約800億円と言われており、さらに寄港地では船内で消費する物品などの補充があることから、個人消費以外でも我が国の経済に与えていた影響は大きかったと言える。

今春から、順次国際クルーズ船の運航が予定されており、定員で区別すると3,000人以上が71本、1,000人以上～3,000未満が56本、1,000人未満が39本の予定である。

今後は、公表されたガイドラインに沿った関係者間での協議を行い合意された後の運航となるが、乗船客への安全・安心のクルーズの提供を行うためには必要なことであり、運航事業者や受け入れ港の双方ともに徹底した取り組みを進めて行かなければならない。

*:

2 トピック

*:

●秋田港が「ポート・オブ・ザ・イヤー2022」を受賞しました！

(東北地方整備局 秋田港湾事務所 海洋利用調整室)

令和5年1月26日(木)にANAインターコンチネンタルホテル東京(東京都)において、「ポート・オブ・ザ・イヤー2022」の表彰式が開催され、受賞した『秋田港』を代表して、穂積 志 秋田市長が表彰状を受け取りました。

受賞理由としては、秋田港を基地港湾として、秋田港・能代港内の洋上風車建設が実施され(1月までに両港で商業運転を開始)、大規模な洋上風力発電導入の先進的な取り組みが進められていることや、これまで立入禁止であった防波堤を安全・安心な施設利用・運営のもと開放し、県内外から多くの釣り客が来場し賑わいをみせているほか、3年ぶりに開催された秋田竿燈まつりにあわせクルーズ船が連日寄港するなど、地域の歴史や資源、産業を活かしながら、港湾を核とし、全国に先駆けた取り組み、地域の活性化や港湾の振興に結びついている点が評価されたものです。

この受賞により、秋田港の認知度が向上し、「みなとの元気」とともに、地域経済の発展につながる事が期待されます。



表彰式の様子



「ポート・オブ・ザ・イヤー2022」盾・表彰状

[参考]秋田県内における「ポート・オブ・ザ・イヤー」受賞履歴

平成23年 船川港:「ポート・オブ・ザ・イヤー2011」受賞

(同時に能代港及び秋田港は、東日本大震災において太平洋側港湾の代替港として、緊急物資輸送等に大きく貢献したことが評価され「ポート・オブ・ザ・イヤー2011」特別賞を受賞しました。)

●東京湾再生の願いを込めて～アマモメッセンジャーが関東地方整備局を訪問～

(関東地方整備局 港湾空港部)

令和4年12月23日(金)、横浜市立金沢小学校と横浜市立みなとみらい本町小学校の子ども達から関東地方整備局へ、アマモの種が届けられました。

横浜市立金沢小学校では、「金沢八景－東京湾アマモ場再生会議」とともにアマモ場再生活動に熱心に取り組んでおり、自分達で採集・選別したアマモの種で「東京湾を海の生き物でいっぱいにして欲しい」との願いを込め、平成19年から毎年訪れているもので、16回目を迎える今回は横浜市立みなとみらい本町小学校も参加しました。

アマモ場は「海のゆりかご」とも呼ばれ、沿岸の浅瀬に分布し、魚類などの産卵場、成育場として重要な役割を果たしており、近年、二酸化炭素を吸収する「ブルーカーボン生態系」の1つとして、カーボンニュートラルの観点から世界的に注目を集めています。

関東地方整備局では、持続した価値ある取り組みとして活躍する子ども達の善意に感謝し、届けられたアマモの種を東京湾再生への活動の輪として大きく育ててまいります。



届けられたアマモの種



参加者全員で記念撮影

●横浜港本牧ふ頭に15,000TEU型の超大型コンテナ船が初入港しました！

(関東地方整備局 港湾空港部)

令和5年1月15日(日)、CMA CGM社(フランス)のコンテナ船「CMA CGM ARGENTINA(アルゼンチナ)」(全長約366m、船幅51m、最大積載数15,074TEU)が、横浜港本牧ふ頭D4コンテナターミナルに初めて入港しました。

同船は、CMA CGM社が運航する中南米航路「ACSA1(アクサワン)」に投入されている15,000TEU型船2隻のうちの1隻として横浜港へ初めて入港し、これまで横浜港本牧ふ頭に寄港したもので過去最大のコンテナ船となりました。

横浜港では、国際コンテナ戦略港湾の競争力強化のため、コンテナターミナルの再編整備を進めて

います。本牧ふ頭においては、D4・D5コンテナターミナルの一体的な運用に向けて、国土交通省・横浜市・横浜川崎国際港湾(株)が連携し、D5コンテナターミナルの再整備を実施しており、引き続きコンテナ船の大型化や増加する貨物に対応するための取り組みを進めてまいります。

※TEU:20フィートで換算したコンテナ個数



入港時の様子



接岸時の様子

●名古屋港ガーデンふ頭2号岸壁に銀河丸が寄港しました！

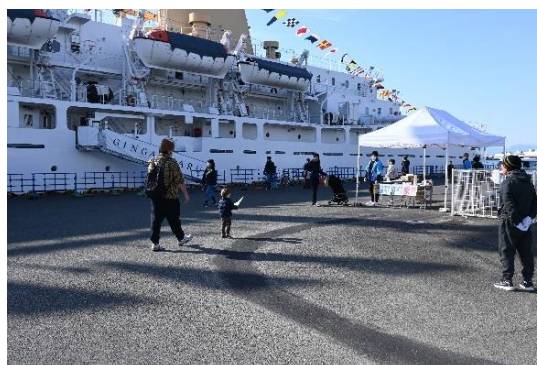
(名古屋港管理組合 広報・にぎわい振興室)

今回「銀河丸」が令和5年1月13日(金)から1月18日(水)までの6日間、名古屋港ガーデンふ頭2号岸壁に、122名の実習生を乗せて寄港してくれました。この寄港は、毎年本組合が、海事思想普及のため、海技教育機構へ練習船の寄港を要請し実現しているものです。

寄港期間中はイルミネーションや満船飾・写真展を実施し、港の風景に彩を添えてくれました。また、1月15日(日)には、2号岸壁を一般開放して船体を見ながらクイズに答えるイベントが実施され、多くの船舶ファンや家族連れでにぎわいました。

通常であれば船内一般公開等で、県民市民が乗組員や実習生と触れ合う機会がありますが、新型コロナウイルス感染症対策により、船内の一般公開は中止となりました。

海事思想普及に協力してくれた銀河丸は、航海訓練を継続して実施するため次港広島港へ向け、1月18日(水)午前10時に出港していきました。



●第3回名古屋港CNP形成協議会を開催しました！

(名古屋港管理組合 企画調整室 次世代エネルギー推進担当)

令和5年1月23日(月)に「第3回名古屋港CNP形成協議会」を開催しました。

今回の協議会では、港湾法の一部改正の概要について中部地方整備局 港湾空港部よりご紹介いただくとともに、これまでの協議会での議論を踏まえた「名古屋港CNP形成計画(案)」と名古屋港管理組合が先行して取り組む施策について説明しました。「CNP形成計画に示された名古屋港の目指す方向性は、水素サプライチェーンの検討を進めている事業者の考えと同一であり、引き続き連携と協力をお願いする」、「計画を実行に移していくことが重要であり、関連する取組、団体と連携し、地域一枚岩となって進めてほしい」などのご意見を構成員よりいただきました。

「名古屋港CNP形成計画」は、今年度末に公表する予定です。

(これまでの議事要旨を本組合Webサイトに掲載しております)

URL:<https://www.port-of-nagoya.jp/shokai/kankyo/1003529/1003562.html>



第3回名古屋港CNP形成協議会の様子

●姫路港の機能強化に向けて ～神戸港湾事務所姫路港出張所 開所式 開催～

(近畿地方整備局 港湾空港部)

近畿地方整備局では国際拠点港湾である姫路港において、「貨物需要の増大や船舶の大型化に対応するとともに、円滑な陸上輸送を確保するため、岸壁・臨港道路・国際物流ターミナルの整備(姫路港広畑地区国際物流ターミナル整備事業)」、「安全で効率的な船舶航行を確保するため、航路及び泊地の整備(姫路港須加地区航路・泊地整備事業)を進めています。

この度、その拠点となる神戸港湾事務所姫路港出張所を設置することとなり、令和5年2月1日(水)に開所式を開催しました。当日は清元秀泰姫路市長をはじめ地元関係者から祝辞を頂戴し、事業に対する地元の大きな期待を改めて実感したところです。

今後も近畿地方整備局では姫路港が地域を牽引する港としての役割を果たしていくため、必要不可欠な事業を安全かつ効率的に進めて参ります。

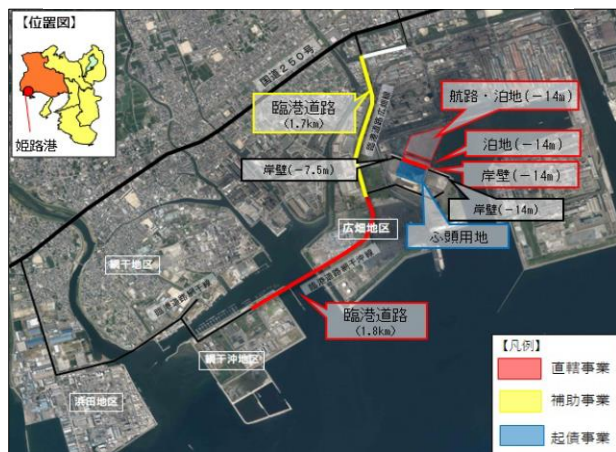


清元秀泰姫路市長からの祝辞



事務所銘板を掲げての記念撮影

【広畑地区国際物流ターミナル整備事業】



- 岸壁(水深14m)
- 航路・泊地(水深14m)
- 泊地(水深14m)
- 臨港道路(網干沖線1.8km)
- 臨港道路(広畑線1.7km)※補助事業
- 心頭用地 ※起債事業

【須加地区航路・泊地整備事業】



- 航路・泊地(水深12m)

